

「農」×「企業」連携セミナー

開催
案内

～ SDGs の実現と企業の CSV 活動の促進に向けて～

【日時】2021年

【会場】※オンラインでも実施

11月8日(月)

東京ウィメンズプラザ ホール

18:00～20:00

【定員】①会場：120名

②オンライン：500名

(開場:17:30)

※会場はソーシャルディスタンス確保のため、通常の座席数の半以下としています。

【内容】

SDGsの実現が世界の企業の共通目標となる中で、CSV(Creating Shared Value=共通価値の創造)に関心を持つ企業が増えています。従来のCSRは事業と切り離れた社会貢献活動ととらえる傾向がありましたが、CSVは事業活動を通して社会課題の解決と企業の成長を両立させようという考えです。特に、人口減少や高齢化の課題に直面する一方、自然・社会資源が豊富な農山村には、CSV活動を進める上でのヒントが眠っています。

本セミナーでは、農山村においてCSV活動を実践する「衣」、「食」、「住」の企業によるリレートークを通じて、農業・地方創生事業に進出する切り口を学びます。

趣旨
説明

「都市農業を農村へのゲートウェイに」

農林水産省 農村振興局 農村政策部 農村計画課 都市農業室

解説

農業・地方創生分野における企業のCSV活動について

高崎健康福祉大学 農学部 生物生産学科 准教授 齋藤 文信 氏

事例

農村部においてCSV活動を実践する企業によるリレートーク

衣

都市型百貨店が地方自治体と共に目指す新たなビジョン

株式会社 阪急阪神百貨店

食

キリングループの持続可能な農業への対応戦略

キリンホールディングス 株式会社

住

re:ROSE GINZA7 ～フラワーロスをゼロに。一輪も取り残さない～

株式会社 ジャパン・フラワー・コーポレーション

【参加・申込方法】

都市農地活用支援センターホームページよりお申込みください

参加費無料

申込先着順

※WEBサイトにアクセスできない場合は、e-mailまたはfaxにて「①会場に来場」または「②オンライン視聴」の別を明記し、氏名・所属・住所・e-mail・tel を記載の上、下記連絡先宛に送信ください。

■主催・連絡先：

一般財団法人 都市農地活用支援センター

〒101-0032 東京都千代田区岩本町3-9-13 岩本町寿共同ビル 4階

http://www.tosinouti.or.jp/ e-mail: seminar@tosinouti.or.jp

tel : 03-5823-4830 fax : 03-5823-4831

申込サイト



開催趣旨

テレワークやワーケーション等の新しい働き方・暮らし方が急速に普及する中で、農業や地方創生事業に関心を持つ企業が増加しています。一方、「どのような切り口で参入したらいいかわからない」、「地方自治体や農業者・地方企業と連携したいが、地方の実態がわからない」といった声も聞かれます。

このため、都市農地活用支援センターでは、企業との連携による「新しい農村政策」の展開を目指す農林水産省農村振興局と協働し、農業・地方創生事業に関心を持つ企業と地方自治体や農業者の橋渡しとなるセミナーを開催することとしました。

コメンテーター

齋藤 文信氏 (高崎健康福祉大学 農学部生物生産学科アグリビジネス研究室 准教授)

博士(農学)(東京農工大学大学院)。秋田県農林水産部等を経て2019年より現職。

1次産業(特に農業)とフードサービス産業の関係について、経営学をベースに研究。

最近の調査研究テーマは、新品種のデビュー戦略構築に向けた調査・研究、企業の農業参入、海外におけるジャポニカ米の動向(特に日本食レストランに着目して)、農業法人の経営戦略、フードサービス業の食材調達と経営戦略など。



リレートークの概要

ご登壇いただく
みなさま

株式会社 阪急阪神百貨店

気候変動によって世界的規模で人々の価値観が変化し、新型コロナウイルス感染症等がその変化を急速に加速した。それに伴い、サプライチェーンにおける環境負荷が高いファッション業界における国際協定や、欧州を中心とした百貨店の循環経済化への取組が活発化している。そのような情勢において阪急阪神百貨店は、英国の環境保護団体との長年にわたる協業を通じて学んだ知見を活かし、施策の場を「都市⇄地方」として持続可能なライフスタイルを拓ける活動「GREENable(グリーンナブル)」を岡山県真庭市と共にスタート。同市の蒜山高原に東京から移築リユースされた、建築家隈研吾氏設計の木造建築物をその旗艦拠点「GREENable HIRUZEN」として阪急うめだ本店との交差的なCSVをつくり、他地域とも連携を図り拓けることを目指す。



前田 陽一郎 氏
(サステナブルコンテンツ開発部
マネージャー)

キリンホールディングス株式会社

キリングroupでは、SDGsが世に出る前から中核事業と関連が深い「健康」「地域社会・コミュニティ」「環境」を重点項目としてCSV戦略を進めてきた。その一つが、主要製品であるビール・ワイン・紅茶の原料となるホップ、ブドウ、紅茶葉とその生産地の持続可能性向上の取り組み。例えば、長野県上田市にあるグループ会社メルシャンの椀子(マリコ)ヴィンヤードでは生態系調査と研究を農研機構と共同で実施し、絶滅危惧種を含む多様な植物や昆虫を確認。日本ワインのために遊休荒地を草生栽培のブドウ畑に再生することが、事業の拡大だけでなく、良質で広大な草原を創出し、豊かな生態系を広げ・守ることを解明。従業員や地域の小学生と共に希少種・在来種を増やす活動も実施。「午後の紅茶」の原料生産地スリランカでは、茶園への持続可能な農園認証取得支援や畑の水源地保全も実施。



藤原 啓一郎 氏
(CSV戦略部
シニアアドバイザー)

株式会社 ジャパン・フラワー・コーポレーション

47年の歴史を持つバラ専門店「ROSE GALLERY」から“Leave NO ROSE behind”「バラを一輪も取り残さない」という想いを体現したエシカルブランド。規格外や廃棄されてしまう運命にあるバラを救いあげ、インスタ映えの店内の装飾はもちろん、バラの香りを蒸留したフレグランスやバラ染めのストール、ギフトなど新たな形へと生まれ変わらせている。都内にある全ての店舗では一切の廃棄を出すことなく一輪のバラも残さず回収しアップサイクルする。新型コロナウイルス禍で、卒業式や結婚式が中止になり、捨てられる花を、どうにか農家救済を行いたいとして始まったスマイルフラワープロジェクトもやっている。



松村 吉章 氏
(代表取締役)

会場へのアクセス

- 渋谷駅 宮益坂口から徒歩12分
(JR・東急東横線・京王井の頭線・東京メトロ副都心線)
- 表参道駅 B2出口から徒歩7分
(東京メトロ銀座線・半蔵門線・千代田線)
- 都バス(渋88系統)
渋谷駅から2つ目(4分) 青山学院前バス停から徒歩2分

東京ウィメンズプラザ(東京都渋谷区神宮前5-53-67)

